

〈東京音楽大学 ACT Project × 所沢ミュージズ〉

# ギターに魅せられて

～ 荘村清志と東京音楽大学の精鋭たち～



今から約 40 年前、NHK 教育テレビで放送されていた「ギターを弾こう」という番組をご存知ですか？ 一流のギタリストたちが講師を務めて、誰でも日本全国で指導を受けることができ、何よりも番組の終わりに講師の演奏をじっくり聴くことのできる人気番組でした。その講師として活躍していた一人が**荘村清志**——岐阜県出身の、日本を代表するギタリストの一人です。

当時としては珍しく 17 歳にしてスペインに渡り、20 歳で演奏活動を開始、日本に戻って「ギターを弾こう」の講師を始めたのはまだ 27 歳の時でした。その後、日本人作曲家に積極的に作品を委嘱し、現代ギター作品のレパートリーを拡大したほか、他楽器との共演にも積極的に取り組み、ギターの世界を大きく広げ、その魅力をさまざまな形で発信してきた草分け的存在です。

今回は、荘村清志が教鞭を執る東京音楽大学の精鋭たちとともに、ギターを中心としたさまざまな音楽の彩りを紡いでいくコンサートです。40 年前には考えられなかったことですが、今や音楽大学にもギター専攻があるのですね！ また東京音楽大学では、さまざまな専攻の学生の混成によるアクト・プロジェクト——いくなれば「学生の音楽事務所」があり、一般のお客様に魅力を感じていただけるプログラム作りに取り組んでいます。今回のプログラムもそのひとつで、学生の企画によるものです。

第 1 部はギターの独奏曲を中心に、第 2 部はギター同士のアンサンブル、さらには他楽器とのアンサンブルをお送りします。「ギターの曲といえばこの曲！」という名曲、かつて弾きたいなと憧れたおなじみの旋律はもちろんのこと、ギターと弦楽四重奏の珍しいアンサンブルや、ギターとピアノの音色の比較など、さまざまな角度からギターの魅力に迫ります。巨匠も数曲、演奏します。

とりあげる作品は幅広く、18 世紀（ハイドゥンやモーツァルトの時代）に活躍したボッケリーニから、昨年亡くなったフランスのギター演奏家ディアンズの作品に至るまで、また作曲家の出身もイタリア、スペイン、チュニジア、アルゼンチンと色とりどりです。

東京音楽大学の精鋭たちによる若くハツラツとした演奏と、ギターのパイオニアであり重鎮でもある荘村清志が織りなす多彩なコラボレーション——是非ともお楽しみに！